



橋本孝一さん
夏井川流域住民による川づくり連絡会代表世話人。流域一斉水質調査など市域を越えて、夏井川流域全体の環境保全活動を行っている。

リレートーク 264

みんなに親しまれ 大切にされる夏井川に

Q 設立したきっかけは何ですか。
県が夏井川水系河川整備計画の策定を進める中で、行政が提案する計画に流域住民の意見を反映させるため、夏井川水系流域協議会が発足しました。計画の策定により、協議会は解散となりましたが、これまでの活動の中で得た知見を広く流域住民と共有し、流域住民の立場から夏井川が抱える問題などについて考えていこうという思いから、平成十二年九月に市内の夏井川流域の住民たちと夏井川流域住民による川づくり連絡会を設立しました。
夏井川は、流域人口が約十五万人に及ぶ生活に密着した川です。私たちはこの親しみのある夏井川が、よりきれいな川になるよう、さまざまな活動をしています。

Q 活動を詳しく教えてください。
川の除草や清掃活動、川との触れ合いを目的としたウォーキング・川下りなどのイベントのほか、川の水質調査を行っています。流域一斉水質調査では、夏井川本川と主要な支川の二十七カ所で一斉に河川水を取・分析します。この調査により、汚れが発生する地点や原因などを把握することが出来ます。
また、小学校などで水生生物や水質調査に関する講座も行っています。事前に除草や清掃を行い、足場や水質などの安全性に配慮して実施しています。今の子どもたちは川で遊ぶ機会が少ないので、最初は怖がりですが、すぐに慣れ、とても楽しんでくれます。川の楽しさや怖さを肌で感じてもらう機会をつくるのが子どもたちに対する思いです。

もたちに対する大人の責務だと思えます。このような経験を子どもたちにさせることで、重大な事故を防ぐ手助けになればとも考えています。
Q 活動に対する思いを教えてください。
夏井川の水質は現状でも悪くありませんが、さらに改善できると感じています。生活排水の適正な出し方などは定着してきましたが、広報活動はこれからも続けていく必要があると思います。また、治水や利水、河川環境の向上は、行政に任せるだけでなく、行政と協力しながら、流域住民が主体となって活動することが重要です。これまでの長年の活動を多くの方に知ってもらい、若い世代への引き継ぎも視野に入れながら、活動の幅を広げていきたいです。



全国的にも珍しい流域一斉水質調査を行う参加者



夏井川流域の小学校で実施している水環境学習支援講座

地名の中の『いわき』

土地改良で消えた条里制の痕跡

戸田地区は四倉市街地の西方に位置し、仁井田川が袖玉山川と白岩川を引き入れる地点付近の右岸、沖積平野が大きく広がる地域です。この地域では、古代から中世にかけて開発が進み、標高五から六メートルの低地に、八世紀以降強力で押し進められた条里制（土地を東西と南北に一定の間隔に引いた線で区切る区画制度）遺構が残るとされています。隣接する大字長友では明治時代に耕地整理が行われ、条里制は消失しましたが、

地名には、地域の歴史を知るヒントが隠されています。市内各所の地名にまつわる由来などを紹介し「いわき」の歴史をひもときます。

大字戸田では豊かな農業環境を背景に、古来の土地割が引き継がれ、稲作栽培やキクの露地栽培などを主体とした農業が昭和三十年代まで連続と続きました。

それでも昭和三十九（一九六四）年、飛び地の解消や小規模字名の統合、字境不明瞭な区域の確定などを図るため、国土調査事業が実施されたことにより、飛び地は解消され、小さな飛び地であった戸田字戸田という字名は消失しました。

時代を経て、長友地区において耕地整理の不備を是正する必要が生じたことから、耕地の均一化・集団化・大規模化を目指す戸田地区と一体的に土地改良事業を行う機運が生まれました。それに先立って、戸田地区では昭和六十三（一九八八）年から翌年にかけて、条里制遺構などの発掘調査が行われました。

その後、土地改良事業が施行されたことにより、戸田の字名改称は平成四（一九九二）年八月開催の市議会において承認され、一部の字名が消えていきました。（いわき地域学會 小宅幸一）
※いわき市内の昔の写真をお持ちで、提供いただける方は、ふるさと発信課（☎22・7503）へご連絡ください。



仁井田川右岸、条里制の残る戸田地区の中央部分で行われた発掘調査〔平成元年（1989）『戸田条里制遺跡－いわき市埋蔵文化財調査報告』第29冊〕

こんにちは市長室から 45



『いわき七浜海道』

いわき市長 清水 敏 男

「いわきおどり」をはじめ、いわきの夏を彩る夏まつりの季節となりました。

そのような中、今月9日には本市観光の起爆剤となる可能性を秘めた、復興サイクリングロード「いわき七浜海道」の一部開通式を三崎公園において開催します。

このロードは、震災の復旧・復興事業として建設された防潮堤の管理用通路などを活用し、サイクリングロードを整備してはどうか

という市民の方からの提案が、平成26年8月1日の地元紙に掲載されたことがきっかけとなり、平成10年度策定のいわき市自転車道路網整備計画に位置付けられていた海岸線ルートとして、国・県の協力をいただきながら整備するものです。総延長は53kmとなりますが、本年度はその一部となる勿来の関公園から三崎公園までが開通し、来年度には久之浜防災緑地まで全線開通する予定です。

国・県においては、自転車活用推進法に基づき、自転車を活用したまちづくりや、健康増進、観光振興を進めていますので、本市としてもこれを好機と捉えて「瀬戸内しまなみ海道」のように、国内外から多くのサイクリストを呼び込める、サイクリングロードとなるよう発信してまいります。